

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	なごやかな森園田		
○保護者評価実施期間	2026年 3月10 日		~ 2026年 4月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2026年 3月 10日		~ 2026年4 月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月10 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語訓練士が常駐しており、言葉の発達に課題があるお子様への療育を手厚く提供していること。	言語訓練士とお子様とのマンツーマンでの訓練を定期的に提供していること。	言語訓練を行うプログラムを更に、個別の特性や発達段階に合わせて提供できるように、プログラム開発を行う。
2	小集団でのプログラムを提供している。	通常、最大でも5人から6人のお子様に対して、職員が3人から4人でプログラム提供しており、きめ細やかなサービスを実施出来ている。	現在の提供しているプログラムより、更に個別の特性や発達段階に合わせて提供できるように、プログラム開発を行う。
3	お子様自身の自律を大切にしている。	遊びの内容を自分自身で選択できるように環境設定を行っており、食事の際にも、量やおかずの大きさ等を自分で決定する事を大切にしている。	お子様自身で行動を選択する能力に加えて、自分の気持ちや考えを人に伝える力をつけるためのSSTを提供していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	言語訓練をマンツーマンで提供する際の、プログラムの根拠になる評価基準が確定していない。	発達検査や知能検査等を取り入れることが出来ていないこと。	評価基準になりえる検査等の導入が必要だと思われる。
2	事業所の開所から期間が短く、チームとしての連携に課題が部分的にみられる。	職員一人一人の役割を明確に出来ていない部分がある。	役割を見える化して、職員一人一人が役割をスムーズに行えるようする。
3	小集団の活動とマンツーマンの活動の連携に工夫が必要なこと。	言語訓練士の提供している専門的な取り組みの良さを、小集団のプログラムの中でも生かすためのアイデアをまとめる途上にある事。	プログラム開発のための、職員間のミーティング時間をしっかりと確保する

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	なごやかな森園田
------	----------

公表日 2026 年 4月 30 日

利用児童数 2026 年 4月 10 日

回収数 6

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6						
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	3	1		2	支援員さんがコロコロ変わるので、少し不安。		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6						
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	6						
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	6						
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	4			2			
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6						
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6						
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6						
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	5				1		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	4				1	わかばの森の子たちとも関わる機会もあり、いろいろな関わりができていて満足しています。	保育園や幼稚園との連携を継続して、色々な関わりが出来るように工夫していきます。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	6						
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	6						
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2			2	2		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	6						
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	4				1	モニタリング面談で支援に対するの評価や新たな課題について助言を頂けた。	定期的に保護者との面談を行い、子育てに対する不安を軽減していきます。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	6						
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。			1	3	2		
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	4				2		

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	5		1		先生方の入退職の頻度が多く、新しく着任された先生のお名前とお顔が一致しづらい状況ですので、その都度ご周知いただけますと幸いです。	新しい職員情報を配布して、保護者周知に努めます。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	5		1			
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	5					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2		3			
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4		1			
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	4		1			
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	5					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	5				利用日が増え、なごやかにいける日は朝から楽しみにしています。	引き続き、安心・安全で楽しい環境作りを継続します。
	29	事業所の支援に満足していますか。	5				いつも詳しく内容を連絡頂ける上に、写真も添えて下さり、様子が良く分かり嬉しいです。	支援内容を詳しくお伝えできるように、更に工夫をしていきます。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		なごやかな森園田				公表日	2026 年 4月 30 日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		小集団での活動を提供している。利用定員とスペースは適切であると思われる。	現在の環境を維持し、利用者が安心・安全に活動できるように配慮する。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	2	職員の配置数が適切になるように、同じ法人内での職員の移動で工夫している。	現在よりも職員数を増やし、子どもの状態に合わせて支援できるようにする。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		生活空間には、刺激になる物なるべく置かないようにし、タイムスケジュールの見える化を行っている。	現在の環境が維持できるように、適宜チェックをする。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		毎日の清掃により清潔で心地よく過ごせる環境になっている。	毎日の清掃を継続し、適宜チェックをする。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	1	子どもの自分の決定で、居場所を選択することが出来ている。	個別でクールダウンできる環境を設定する。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	2	3	業務改善のためのミーティングの時間が物理的に少なかった	定期的なミーティングを開催して、PDCAサイクルを達成する。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	開所して初めて、保護者様より評価を頂いた。	保護者様より頂いた評価表をもとに、業務改善につなげる。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		職員からの情報共有の時間は設けているが、物理的に時間を増やした方がよいと思われる。	定期的なミーティングを開催して、職員からの意見が出やすい環境を作る		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	1				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	1				
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		支援プログラムの作成と、公表をしている。	支援プログラムの内容を向上させながら、継続して公表していく。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		アセスメントを行い、保護者のニーズや課題を分析し、児童発達支援計画を作成している。	アセスメントの精度を上げて、保護者ニーズや課題の発見を進める。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		子どもの支援に関わる職員の共通理解を進めている。	職員の共通理解が進むように、情報共有の機会を増やす		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われている。	職員の共通理解が進むように、情報共有の機会を増やす		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		日々の記録を通して、こどもの適応行動の状況を確認している。	職員同士のコミュニケーションを通して、子どもの様子を観察する機会を設けていく。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		子どもの支援に必要な項目を設定し、具体的な支援内容を設定している。	子どもの支援内容を適宜、アセスメントして支援内容を向上させていく。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	1	職員の移動等でチームでのプログラム立案が難しい時期があった。	チームで行う会議を定期的に設定し、活動プログラムを設定する。		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		子どもたちの特性や発達年齢に応じて、プログラムを固定化しないようにしている。	子どもたちの特性や発達年齢に応じて、多様なプログラムを提供できるようにする。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		子どもの状況に合わせて、個別活動と集団活動に必要な計画書を作成し、支援を行っている。	継続して、個別活動と集団活動に必要な計画書を作成し、支援を継続する。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		支援開始前に打ち合わせを行い、プログラム内容の確認を行っている。	継続して、支援開始前の打ち合わせを行う。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1	支援終了後に支援の振り返りを行っているが、時間的に実施できない事もあった。	情報共有のツールを利用して、振り返りが行えるように工夫をする。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	1	日々の支援を記録している。支援の検証・改善につなげている。	継続して日々の記録をとることを徹底していく。
	23	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		モニタリングを定期的に行い、児童発達支援計画の見直しを行っている。	モニタリングを定期的に行うように、管理をしっかりとる。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		関係機関との情報共有では、子どもの状況をよく理解した者が参画している。	子どもの状況を理解を職員間ですすめていく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		1	関係機関との連携はあまり取れていない。	必要に応じて、関係機関との連携体制を整えていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		保育所と必要な情報共有を行っている。	継続して、保育所等と情報共有を行い、相互理解を図る
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1	就学前には、保育所に情報共有をすることで相互理解を図っている。	継続して、保育所等との情報共有を進め、相互理解を図る。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		4	現在、児童発達支援センターからの助言等は受けていない。	利用者情報の共有のために、必要に応じて児童発達支援センターからアドバイスを受けていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	1	関係の深い保育所と同じ場所で、砂遊び等を行うことがある。	出来る範囲で、地域交流の機会を企画する。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送り迎えの時に、子どもの活動の様子等を伝えることがある。	職員全員が日頃の保護者との会話を意識するように配慮していく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	3	保護者へのペアレントトレーニングを具体的に提供することはできていない。	家族支援プログラムを進めていく。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時に運営規定や支援プログラム、利用者負担について丁寧な説明を行っている。	継続して、説明を丁寧に行っていく。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		保護者との面談を時間を取って、家族の意向を確認して、計画している。	保護者との面談でより必要な情報を共有し、児童発達支援計画に反映できるようにする。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		支援内容の説明をしっかりと行っている。	継続して支援内容の説明を丁寧にする。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		定期的に家族等から相談を受け、必要な助言と支援を行っている。	職員全体で研修を行い、子育ての悩み等に応える力をつけていく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4		保護者会等を開催することができていない。	保護者が交流できる機会を企画していく。
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		相談に対して、迅速かつ適切に対応するようにしている。	保護者の相談や申し入れについて、対応できるように、知識や技術を身に着的けるための研修をおこなう。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		SNS等を通して日常の活動内容を写真入りでお伝えすることを行っている。	SNS等の情報を工夫して、より楽しいものにしていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		個人情報の取り扱いに関しては、十分留意している。	SNS等での写真の扱いには特に注意をしていく。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		視覚支援を通して、意思の疎通に配慮している。	言葉の遅れが見られる子どもたちに、写真やイラストを用いて配慮をすすめる。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4		地域住民を招待するような行事を開催していない。	事業所での行事開催も検討する。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		定期的な訓練を実施できていない。	年間計画を立て、しっかりと訓練をすすめる。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		業務継続計画に改善の余地がある。	業務継続計画をしっかりと策定し、必要な訓練をすすめる。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		保護者との面談で、服薬等の状況を確認している。	継続して保護者との面談を通して必要情報を確認していく。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		医師の指示書に基づく対応をしている。	継続して、医師の指示書に基づく対応をしていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	1	3	安全計画の作成が不十分な箇所がある。	安全計画を新たに作成し、安全管理が十分になされるようにする。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	1	3	安全計画の作成が不十分な箇所がある。	安全計画を新たに作成し、安全管理が十分になされるようにする。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	1	3	ヒヤリハットの記録が不十分な箇所がある。	ヒヤリハットの記録を新たに見直し、事業所内でしっかりと共有できるようにする。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	1	3	虐待防止の研修が不十分な状況がある。	虐待防止の研修を新たに計画して、適切な対応ができるようにする。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	1	2	身体拘束に関して、組織的に決定することが不十分な状況がある。	身体拘束に関して、現在より組織的に決定することを進め、児童発達支援計画に記載できるようにする。	